

E・アシュビー著「誰でも何でも学べる大学 - ケンブリッジ大学人が見たアメリカの高等教育 - 」

玉川大学出版部 1999年3月20日刊を読む

コミュニティ・カレッジの可能性とは

1．コミュニティ・カレッジに親しみをもつ人たちは四年制大学で受けられる教育以外の学習にもっと進展があつてほしいと考える。そこには四年制大学から課される必修要件に抑圧されない想像と企ての視界がひらけているからだ。

P25

2．コミュニティ・カレッジのもつ、最も力強い特徴はそれが若者だけでなく、成熟した大人に対しても提供されていることである。コミュニティ・カレッジは職業再訓練において非常に重要な役割を果たす。これらのカレッジは、四年制大学の機能を果たすことにとらわれなければ、もっと多くのエネルギーを想像に満ちた課程(たとえば、クリーヴランドにあるカヤハウガ・カレッジの「枠外」課程のような)や他の二年完結教育課程に注ぐことができよう。このような活動においてこそ(もちろん、転学のための準高等教育コースを開設する二次的な権益も留めたいうえで)コミュニティ・カレッジは(私見ではあるが)アメリカ国民に最も貢献できる。あまねくゆきわたった(ユニバーサルな)教育が行われるとすれば、ここにこそ強力な推進があつてしかるべきである。

P27

[コメント]

日本では全くといってよいほど手つかず状況の大学開放(コミュニティ・カレッジ)の制度設計をする上での基本図書の一つ。

- 2009年11月28日 林明夫記 -